

令和7年度 第4回 藤沢市立大清水中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2026年1月29日（木）15時～16時30分  
場 所 大清水中学校 図書館

出席委員等	<p>安藤 正俊（会長／三者連携ふじさわ大清水心のかげはし会 会長）                  山下 尚子（副会長／大清水中学校 校長）                  吉田 正彦（大清水中学校 第9代校長）                  三木 英正（県立藤沢清流高校 校長）                  吉田 純（地域学校協働本部コーディネーター）                  小西 智子（藤沢東部地区主任児童委員）                  橋本 幸直（藤沢市民センター センター長）                  野際 良介（聖園子供の家 施設長）                  磯貝 憲一（社会体育振興協議会）                  皆川 沙登美（大清水中学校 大清水の会本部役員）                  坂口 由紀（大清水中学校 教頭）                  丹下 敦子（大清水中学校 教務主任）</p> <hr/> <p>出席委員：12名                  事務局：坂口 由紀（大清水中学校教頭）                  オブザーバー：3名（大清水小学校 加藤校長・藤沢市民センター 事務2名）</p>
次第	<p>1. 開会                  (1) 校長より                  (2) 特別支援学級授業参観                  (3) 会長より                  2. 協議                  (4) 学校評価について                  (5) 特別支援学級の1日について                  (6) 各学年特別活動の取り組みについて                  (7) その他                  2. その他                  3. 閉会</p>
協議内容	<p>(4) 学校評価について（校長より：資料あり）                  前向きな評価をいただいている反面、厳しい意見をもらっているものもある。生徒への寄り添いは続けながら、生徒自身の気づきへつなげていけるような教育活動を学校全体として取り組んでいきたい。  <b>【意見】</b>保護者の回答で、分からないという割合が多い項目がある。子どもとどれだけ話をしているのかとを感じる。分からないという回答はコミュニケーションがとれていないことの表れだとすると、子どもとのコミュニケーションがと</p>

れているかという問いがあっても良いのかもしれない。

**【質問】** 保護者からあがった意見に対してどう返す？

⇒該当する教員へ話をする。

→学校としての見解を示す必要があるだろう。

**【質問】** 保護者の記名はどうなっていますか？

⇒保護者に対しては必須にはしていない。

→回答が「学校運営に関すること」なのか「個人の意見」なのか、やはり記入する方にも責任が必要なのではないか。

**【質問】** 放課後学習希望の生徒に場所を開放することはできませんか？

⇒検討していく。しかし、生徒が残る場合は職員が対応することになるため、その部分にご協力いただけるボランティアの方がいらっしゃれば…。

(5) 特別支援学級に1日について (資料あり)

・(プリントに添って説明) 目的をもって行事等に取り組んだ。

**【質問】** 「茶」とは何ですか？

⇒「茶道」のこと。季節によって行う。

**【質問】** 職場見学はどこに行きますか？

⇒特例子会社である『ファンケル』にお世話になった。

**【質問】** 米作りに対して生徒たちはどう捉えている？

⇒非常に楽しそうだった。

(6) 各学年の特別活動の取り組み (最近の学年の現状について)

・〔1年生〕八ヶ岳実施。学習の時間に対しても積極的に取り組んでいた。八ヶ岳の気候を活かし、氷の研究を行っている生徒も多くいた。

・〔2年生〕キャリア教育の一環として、CASプログラムに取り組んだ。生徒が生き生きと活動している様子が印象的だった。

・〔3年生〕各行事ともに最高学年として主体的に取り組むことができた。現在受験(検)に向けて出願を行っている。

**【質問】** キャスプログラムはいくらかかりますか？

⇒学年会費で4,000円程度/1人あたり

(7) その他 (会長より)

・令和8年度より大清水小学校でコミスクがスタートする。来年度で市内全部の学校で設置となる。そのことも含めてどのような体制で進めていくべきか考えてみた。地域学校協働本部を受け皿として、地域コーディネーターが学校と地域を結ぶ役割。大清水中学校では吉田純さんに担ってもらっている。次年度、大清水小学校で開始されるコミスクはほぼ同じメンバーとなる。三校交流等のつながりもあることから、会長・大清水小、中各校長と話し合いを行い、次年度のコミスクは、大清水小・中合同で行いたいと考えている。

また、大清水地区は藤沢地区と重なる部分も多くあり、名称は違えど、それぞれで三者連携も行っている。大清水地区、藤沢地区に関しても、重なり合う部分も多いので負担軽減、人探しの対応についても早く解決できるのではと考

<p>えている。国からやるべきこととして示されているため、それぞれの担当によって、極力負担になることのないように、藤沢地区全体でやれると良い。しかし、「かけはしの会」は今の形で継続、学校評価に関してはそれぞれの学校で行う必要があるだろう。</p>
---

次回開催予定 2026年2月 書面開催（学校評価）